



『考える』ことの重要さ

代表取締役社長

安永 暁俊

いよいよ新年度が始まりました。今年も9名の新入社員を仲間として迎え入れ、実にうれしく思っています。新しい仲間とともに、今年度の目標達成に向けて一歩ずつ進みましょう。

今回は、新入社員や若手の皆さんへ、社会人として一層求められる『考える』ことについて話します。

先輩の皆さんも、自分の経験を踏まえながら読み進め、後輩へ良きお手本を示してください。

『考える』とは

辞書によると、『あれやこれやと思いをめぐらす。その事について、心を知的に使って判断する』。『新たなものをくふうする。考案する』とあります。別

私たちは無数にある情報から、問題ない（関係ない）と感じたものや、出来そうにないと感じたものは捨ててしまいます。その捨てられた情報の中に、先ほど述べた「上司からの想定外の質問」が入っていたのかもしれない。

ですので、皆さんが情報を頭に入れるときには、2016年4月号『主観的な見方、客観的な見方』で述べたように、感情的・主観的にならずにありのままの情報を入れる努力が必要です。また、2014年4月号『継続は力なり』で述べたように、メモを取る際、自分の感情や気持ちを別の行にメモすることに努めてください。

書くことで整理できる

無数の情報が頭の中にあふれていると、なんとなく考えた気分になります。でも本当は、そこから考え始めるのです。

お願いしたいのは、頭の中にあることを、紙に書き出すことです。書き出したものを見て、『事実』と『自分の気持ち』に仕分けできれば、自分の頭の中を整理できます。そうすれば、探したい情報の中からすぐに見つかります。

さらに、書き出すことで、その情報を安心して忘れることができます。そうすると、頭に空いたスペースができて、考える余裕が出てきます。例えば、机一杯にものが散らばっていると、机の上で作業できません。同様に、頭の中にも作業するスペースを作り出すことが必要です。

思いをめぐらす

頭の中をスッキリさせた後、次に、思いをめぐ

の辞書では、『頭を働かせる。判断する。結論を導き出す。予測・予想する。想像する。意図する。決意する』と数多くの意味があります。『考える』とは、『社会人として求められる』ことでしょうか？

課題解決・問題解決を考える

まず、考える対象を絞って話を進めます。日常業務の中で、『課題や問題を解決する』ために考えることや、『課題や問題自体を見つける』ために考えることがあります。今回は、『課題や問題を解決する』ために考えることを述べます。

課題や問題を解決するといっても、学生時代のようにペーパーテストを解くものではありません。例えば、製造現場のトラブルの要因追及や、改善活動での成果達成、社内外への企画書や提案書の作成、各部署の意見調整と合意形成など、その方法は様々です。

頭の中を3S(整理・整頓・清掃)する

皆さんの経験でこんなことはありませんか？

皆さんがよくよく考えたのに、上司から想定外の質問をされて、答えられず困ってしまったこと。あれだけ考えたのに、なんで考え付かなかったのだろうと、不思議に思うことがあります。どうすれば、自分の中で想定外のことや予め想定できなかったのでしょうか？

私たちは、頭の中が情報で一杯になった状態をよく考えたと思いがちです。そうではなく、頭の中をスッキリさせてから、あれこれ思いをめぐらすことが『考える』ことです。

私たちが、頭の中が情報で一杯になった状態を、よく考えたと思いがちです。そうではなく、頭の中をスッキリさせてから、あれこれ思いをめぐらすことが『考える』ことです。

『何の目的でやるのか』考えてみましょう。そもそも、その問題を解決するのは、何かしらの目的があるからです。目的が明確であれば、自ずと目標も定められます。ただし、そこへ向かう手段を考えるあまり、手段が目的になってしまわないよう注意すべきです。

『なにが一番、会社のためにやるのか』考えてみましょう。自分の立場で考えた後に、会社全体の立場で考えてみるのが大切です。そうすると、会社にとっての最善の答えが浮かんできます。

『どれくらい時間をかけて解くのか』考えてみましょう。できるだけ早く暫定策が求められているのか、時間をかけて恒久策を求められているのか、それにより対応が変わってきます。

『自分が関わる意味や意義は何か』考えてみましょう。課題や問題には、出題した側の何らかの意図があるはず。皆さんに経験を積んでもらいたい、未経験者ならではの斬新なアイデアを期待したい、色んな部署に聞いて意見を取りまとめしてほしい等、自分がそれに応えているのか振り返ってみてください。また、答えに自分らしさが発揮できているか振り返ってみてください。

『自分が問題の本質を捉えて答えているか』考えてみましょう。ここまでの答えを見直して、問題を取り違えていないか、問題で見えていない部分やなかったか振り返ってみてください。周りの人に聞いてみるのも役に立ちます。また、あらゆる可能性を検討したのか、答えを実行した時に社内外でうまく進められそうか想像してみてください。

皆さんが仕事をやる上で、関係する情報は無数にあふれています。

製造現場でチョコ停の防止に取り組む時、4M(マン、マシン、マテリアル、メソッド)分析をする時があります。チェック漏れがなかったか、手順を間違えてないか、機械から異常音が出てなかったか、刃先に異常はなかったか、送り速度が適正だったか、明文化されていない現場の慣習があったか等、確認すべき情報は数多くあります。事務所で書類や議事録の作成に取り組む時、書くべき内容はなにか、何の目的で書くのか、誰に向かつて書くのか、上司からのアドバイスはなにか、隣の部署はどう発言していたか、対応部署や期日を書き込んだか、自分の意見はどこまで書くのか、文書を書く上での暗黙の了解やルールはあったか等、確認すべき情報は数多くあります。

皆さんの周りにあふれている無数の情報は、皆さんの頭の中にも入ります。しかも、その情報を頭にインプットするときに、情報に対する感情や主観も一緒に入ってきます。

例えば、機械の音を聞いたとき、これは普段通りで問題ないと感じたとき。しかし、一緒に音を聞いた隣の人は、少し音が大きいので後で機械内部をチェックすべきだと感じたかもしれません。

また、上司のアドバイスを聞いて、これは無理そうだから後回しにしようと感じたとき。しかし、一緒に聞いた隣の人は、成果を出せそうなので早く取り組むべきだと感じたかもしれません。お互いどう感じたか、一つ一つ確認していけば良いのですが、その時間がなかなか取れないこともあります。

思いをめぐらせていると、素晴らしいアイデアが浮かぶ時が来ます。中国の先人歐陽脩の言葉『三上』があります。すなわち、馬上、枕上、廁上です。馬上は乗馬のことですから、今風に言うなら電車やクルマの中、枕上は布団の中、廁上はトイレの中です。

皆さんにも経験あると思いますが、腕組みして考えこんでいても、意外とアイデアは出てこないものです。それよりも他事をしているときに、考えあぐねていたことについての、良いヒントがひらめくことがあります。

私にも三上の経験が何度もあります。特に最近、朝起きて布団から出るまでに、ふと思いつくことが多くなりました。その時に、思いついたら直ぐ、メモを取ります。その場でメモをしないと、アイデアが逃げてしまうからです。

最後に

思いをめぐらしながら、最後に、自分の考えをまとめていきます。自分が何をしたいのか、どうしたいのか、自問自答しながら、自分なりの力強い結論を導き出して、上司にぶつけてみてください。皆さんの熱意があれば、上司の方も耳を傾けるはずです。

『考える』ことで、皆さんの課題や問題が次々と解決されることを切に願います。

参考文献 やわらかい頭の作り方 細谷功著

「言葉にできる」は武器になる。 梅田悟司著